

乳がんの状況

日本人女性の乳がん罹患数（病気にかかる人数）は、年々増加傾向にあり、現在では9人に1人とされています。乳がんは、日本人女性がかかるがんの上位を占め、世代別では30歳代後半から急増し、50歳代前後を中心に最も多くなります。また、遺伝性の乳がんなど、20歳代で罹患する乳がんもあります。

罹患数が多い部位（平成30年）【全国・女性】

	1位	2位	3位	4位	5位
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮

国立研究開発法人がん研究センター
がん対策情報センターより

ブレスト・アウェアネス

日頃から自分の乳房を意識し、乳房の変化に気をつける生活習慣のことです。

STEP1 ご自分の**乳房の状態**を知る

STEP2 **乳房の変化**に気をつける

チェックポイント

- 乳房の腫瘍の自覚
- 乳頭からの分泌物
- 乳頭や乳輪のびらん
- 乳房痛
- 乳房の皮膚の凹みや引きつれ

STEP3 乳房の変化を自覚したら、次の検診を待たずにすぐ医療機関へ

STEP4 **40歳**になったら**2年に1回**
乳がん検診を受ける

（日本では40歳以上の女性に対して、マンモグラフィを使用した乳がん検診が推奨されています）

「乳がん」「がん検診」などのがん情報についてもっと詳しく知りたい方は、国立がん研究センターのがん情報サービスをご覧ください。

国立がん研究センター
がん情報サービス

ganjoho.jp



～個人情報の取り扱い～

がん検診結果や精密検査の結果は、厚生労働省等の指針・ガイドラインに基づいて、市へ報告されます。

がん検診を受けた医療機関以外で精密検査を受診した場合は、検診と精密検査を受診した医療機関間で結果を共有することがあります。

受診者の氏名や住所は、がん検診のアンケートや精密検査の受診勧奨通知等に利用することがあります。

津市や三重県の健康推進を目的に、がん検診や精密検査の結果について統計的な処理を行い、公表することがありますが、その場合個人が特定されることはありません。

津市 健康づくり課 令和4年6月作成



乳がん検診

を受診される方へ

これから受ける
検査のこと

早期発見・早期治療で命を守る



乳がん検診の有効性

津市が推奨する乳がん検診（マンモグラフィ）は、「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。

しかし、がんが見つけない場所にある場合や見つけない形をしている場合には発見できないことがあります。反対に、がんでなくても「要精検」と判定され、死に至らないがんが見つかったために、不必要な治療を受けることがあります。また、がんが見つからない場合もあります。

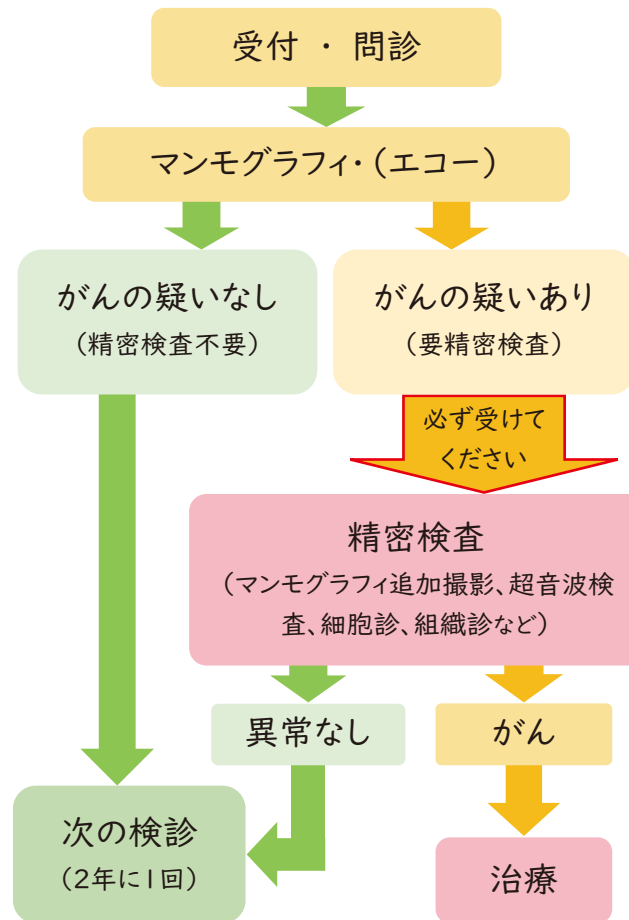
乳がん検診は、低い確率で起こるデメリットよりも、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが証明されています。

40歳以上の女性は、2年に1度検診を受けることが大切です。

早期の乳がんは自覚症状がないことが多いです。また、乳がんの中には急速に進行するがんもあります。しこり、乳房の引きつれ、乳頭から血性の液が出る、乳頭の湿疹やただれなどの症状がある場合には、次の検診を待たずに医療機関を受診しましょう。

自覚症状がない場合は、定期的に検診を受けることで、がんを発見できる確率は高まります。

乳がん検診の流れ



津市では、国の指針に基づき、判定の精度を高めるため、2人の医師が判定を行う二重読影を行っています。そのため、検診結果の返却には1か月程度かかります。

乳房X線検査（マンモグラフィ）

小さいしこりや石灰化を見つけることができます。乳房を片方ずつプラスチックの板ではさんで撮影します。乳房が圧迫されるため多少の痛みを感じるがありますが、圧迫時間は数十秒ほどです。

- *放射線被ばくによる健康被害は、ほとんどありません。
- *妊娠中や妊娠の可能性のある人は、被爆の影響の少ない超音波検査がよいでしょう。



乳房超音波検査（エコー）

超音波により乳房の病変の有無を調べます。乳腺の発達した人や若い人に適しています。



精密検査は必ず受けましょう！

検査の結果、要精密検査となった場合には、必ず検診を受けた医療機関に相談してください。

精密検査の方法

《マンモグラフィ追加撮影》

疑わしい部位を多方面から撮影します。

《乳房の超音波検査》

超音波で、疑わしい部位を詳しく観察します。

《細胞診、組織診》

疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し、悪性かどうか診断します。

※その他、必要に応じ、マンモトームや乳腺のMRI検査などを行う場合があります。